

ユージ 斧に気をつけろ 伊藤祐二

音楽の世界は、いよいよ厳しい。いったいどれだけの企画が中止、延期になったか、想像もつかない。

村田厚生トロンボーンソロリサイタル

「Prestop」 2021年3月24日 杉並公会堂
小ホール

延期の上、開演。グロボカール、牛島安希子、一ノ瀬響、池田拓実、村田厚生作品。今回は、ライブエレクトロニクス、特に奏者が装着したモーションセンサーにより、奏者の身振り、動きが、音響処理に介入するのがポイント。さすがに第一人者あざとさなど微塵も感じさせず、スマートで妙味のある動き、音響とのやり取りを大いに楽しむ。新しい要素に可能性を感じた。作曲家の表現の深化が今後の楽しみ。

庭園想楽第一回演奏会 2021年3月30日

日本福音ルーテル東京教会

ベートーヴェンの作品を、同時代の作曲家⇨フェティス、ルソー、アルブレヒツベルガーの作品の中に置いて聴いてみるコンサート。作品59・2でコンサートが終わった時、隣で聴いていた知人が「圧倒的で、他の作曲家が霞んでしまった」と。私も同感、でも、当時書かれていた「耳をつんざく」「奇抜」「袋に入った釘をぶちまけて・・・」等の悪評を思い出してもいたのだった。

尾池亜美、石上真由子、多井千洋、荒井結、石川星太郎の快演。

未来に受け継ぐピアノ音楽の実験コンサート

2021年1月17、23、24日 両国門天ホール

私が関わっているプロジェクト中で、ピアノニスト井上郷子と共にプロデュースしたコンサート。「拡張ピアノ奏法を使う」と

いう条件で委嘱した、21人の作曲家による21曲の新作を4人のピアニストによって3日間で初演。拡張ピアノ奏法という古くからあるテーマだが、すでに自分の中にあるそれへの解答を、改めて頭と耳をもって再検討し得た人の作品こそ新鮮だった。

金ヨハン：a embodied " piano" for 1

piano and 3 voices 演奏/井上郷子、篠田昌伸、

樽谷静香

ピアノを囲んで三人の奏者。一人が鍵盤を奏し、二人が掌で弦をミュート、同時に三人はハミングで歌う。鍵盤を弾くが、他人にミュートされる、ミュートするが他人が打鍵した音のみが鳴る、並行して関係の不明なハミングが歌われる。身体と楽器、音響の関係性は複雑で不明瞭、そしてそのアンサンブルと立ち昇る響きは美しくチャーミングでユーモアすら感じさせる。新鮮な批評性と手法と結果。最近めったに出合えないもの。

渋谷由香：Found Overtone 演奏/井上郷子
倍音を強調する場所をゴムとぬいぐるみでミュート。複雑な倍音、平均律から微妙に外れるピッチ、作曲者が自分の耳で誠実に綴った響き、蜃気楼のように揺らぐ三和音、繊細で毀れそうなほどに美しい。

伊藤祐二：エコーの森 演奏/井上郷子

拙作。奏者が演奏を始める、途中よりアシスタントがフェルトの楔を弦に差し込んでゆく。すると、三つのスピーカーから、あらかじめ録音されたピアノの音が様々な空間定位で鳴り始める。(音はどこにあるのか?) 奏者が演奏を終えて立ち去る。音は空間に残っている。奏者が戻り、鍵盤の蓋を閉めると音は消える。奏者が立ち去る。ピアノがひとりでに(孤独に)二度、鳴る。

(オンライン公開予定。その時はお知らせします。)